

平和の学びを終わらせない

大船渡市立盛小学校 五年 畠山 史子

No. 1

今年の八月六日、私は広島の平和祈念式典に参列しました。きっかけは、兄がヒロシマの原爆の悲しみを伝える絵本を読み、感想文を書いて招待されたことでした。広島には見どころやおいしい物もたくさんあり、同時に原爆のことについても勉強でき、大事なことを私も知ることができてうれしいというのが正直な気持ちでした。

No. 2

原爆資料館に入る前に考えていたことがあります。私は以前「はだしのゲン」を読んだ時に、被爆した人が重いわけや血を吐くような苦しみを味わって死んでいくのを知り、怖くてもう読んでいられない気持ちになりました。きっと「はだしのゲン」で描かれていることが、写真や模型でリアルに目をそむけたくなるほどに表現されているに違いない。だけど、私はそれを最後まで目をそらすないうで見続けようと思いました。

ところが、私は資料を見ているうちに、意  
 外なことに気づきました。思ったよりも怖く  
 ありません。確かに資料を読むと、悲しい死  
 に方をした人の話がたくさん書かれています。  
 胸が苦しくなりました。だけど、それを示す  
 絵や模型が、目をそむけたくなるほどではあ  
 りません。昔から資料館を見続けている方に  
 聞いたところ、以前はそうではなかったとい  
 う話でした。だけど、今の子にありのままを  
 見せると泣き出したり、そのために抗議を受  
 けたりしたこともあった。そうなので、今の子  
 でも泣かずに見られるように、おだやかな表  
 現に変わってきたのだそうです。

私はそれを聞いた時に、怒りました。なん  
 て弱小なんだろう、そんなことで戦争のひび  
 きを私たちの世代が未来に語りついでいける  
 わけがないと思いました。しかし、ふと、自  
 分はどうだったのかをふりかえりました。た  
 しかに、日はだしのゲン<sup>①</sup>を讀んだときに、こ  
 の悲しみを自分も語りつこう、二度と戦争を

起こさないと心に決めました。だけどその後  
 は、<sup>口</sup>はだしのゲン<sup>口</sup>を一度も読んでいません。  
 他にも、原爆や戦争について色々な本を読ん  
 だことがありますが、どの本も一度読んだき  
 りにしていきました。今回の旅行では資料や戦  
 争遺産を見るだけでなく、実際に被爆した方  
 の証言など、多くの方からお話を聞く機会  
 もありました。だけど、その話は「たくさん  
 聞いたから偉い」というものではなく、実際  
 に話を聞いたたり資料を読んだりした自分と向  
 き合い、周りの人と語り合い、自分にできる  
 やり方で未来につなげなければ意味がないこ  
 とに気が付きました。

旅行から帰ってきた私は、自分が勉強して  
 きたことを同じ学校みんなに知ってもらう  
 ために、自由研究として模造紙にまとめると  
 にしめました。心かけたのは、どうすれば読  
 んでくれた人が「自分ももつ」と原爆のことに  
 ついて知りたいたいと思ってくれるか。そして  
 私と「原爆について話したい」と思ってくれ

るように書けるかということですが。

まずは私達が実際に広島でたどってきた道を地図にしたり、平和祈念式典の時間経過を書きこんだりして、読んだ人も参加した気持ちになれるように工夫しました。さらに、被爆した方の証言については、自分が一番心に残ったことや質問して答えてもらったことを中心に書いて、特に大事だと思っただことから話の内容がそれないようにしました。会場でもらった八月六日の広島新聞の号外は、お

No. 8

そらく後から岩手で手に入れることは難しいので内容と会場の雰囲気伝えるために、そのまま資料として使うことにしました。

下書きの段階で模造紙八枚になることが分かり、とても手間がかかると思いました。しかし、みんなに伝えるために、私はやりとげたいと思います、書き始めました。不思議なこと、頭の中にあっただことをまとめて清書しているつもりなのに、書いているうちに、今まで気付かなかったことに気付きました。誰か

No. 8

に知ってもらうために書いていることが、自分  
 がまた新しいことに気付くきっかけになり  
 ました。

私の書いたものを見て、もっとと原爆につい  
 て知りたくなつた人がいればうれしいし、そ  
 の時は一緒に『はだしのゲン』を読むことに  
 なるかもしれません。その時には『私の方が  
 知っている』と思わず、その人と一緒に語り  
 合うことでもっと深く知ることができると  
 を喜びたいです。また『はだしのゲン』も読

み直せば新しい見方も広がると思います。前  
 に感じた「怖い」を乗り越えて、その先に伝  
 えたいものは何かを考えられるようになりた  
 いです。それは、今まで読んできた本やまだ  
 見たことのないものにも言えます。

そのような思いで完成させた自由研究は、  
 大事なことを教えてくれたたくさんの方々へ  
 の感謝の気持ちを確かめるものになりました。